



# 埋文だより

第84号

令和3年2月25日発行

## 西南戦争を掘り、学ぶ



岩川官軍墓地  
(曾於市大隅町岩川)



高熊山で出土した銃弾と薬莖  
(伊佐市大口)



薩軍墓地  
(曾於市末吉町)

西南戦争は明治10(1877)年、西郷隆盛率いる西郷軍と政府軍によって争われた国内最後の内戦です。日本近代化の契機にもなったこの戦いは、九州各地で激戦が繰り広げられ、戦場としては熊本県田原坂や熊本城、鹿児島市城山などがよく知られています。

当センターでは「西南戦争を掘り、学ぶ」事業として平成30年度から関連する遺跡の調査を進めてきました。ここではその発掘調査の成果について触れ、併せて小・中・高等学校で行った西南戦争について学ぶ授業支援の様子についても紹介します。

### 目次

- ・西南戦争を掘り、学ぶ……………1
- ・西南戦争とかごしまの遺跡、勃発の要因……………2
- ・激戦の地、終焉・新しい時代へ、未来へつなぐ…3
- ・埋蔵文化財専門職員養成講座ほか……………4
- ・河コレ遺跡めぐり(①一之宮遺跡)……………5
- ・発掘速報、現地説明会……………6



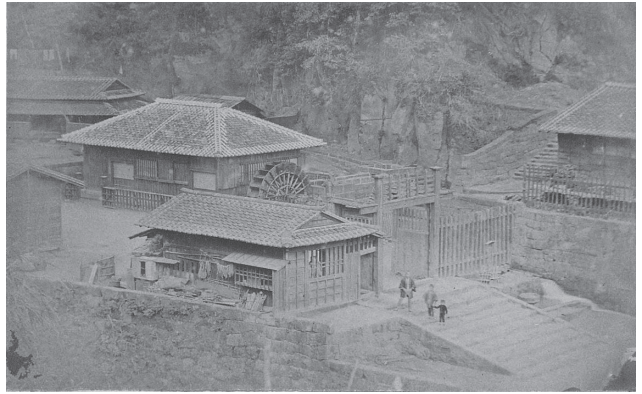
# 西南戦争とかごしまの遺跡

西南戦争は、士族により引き起こされた国内最後の内戦と言われ、熊本県田原坂や熊本城、西郷隆盛終焉の地である鹿児島市城山などが激戦地としては有名ですが、関連する遺跡(戦跡など)は県内各地に100か所ほど残っています。

契機となったのは明治10(1877)年1月末、政府が鹿児島市滝ノ上火薬製造所から弾薬製造設備を持ち出そうとしたことや私学校徒らが鹿児島市草牟田にある火薬庫を襲撃したことです。その後、事態は緊迫の度を増し、2月15日に西郷隆盛率いる鹿児島の士族1万3千人が鹿児島を出発し、熊本城や田原坂で激しい戦いを繰り広げることとなります。

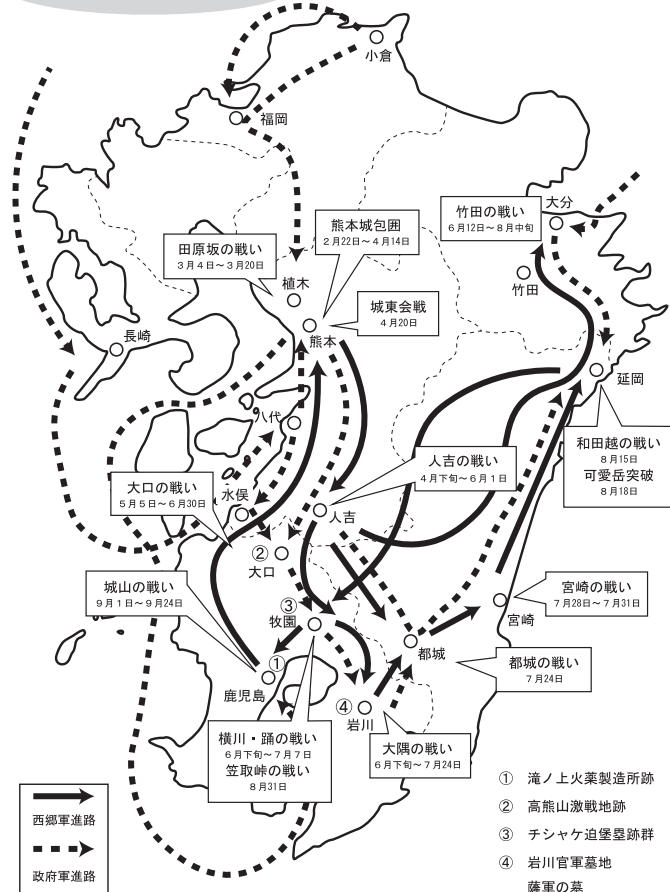
意外と知られていませんが、鹿児島城下をめぐる、鹿児島市内でも5、6月に政府軍と西郷軍が激しい攻防を繰り広げています。6月には辺見十郎太率いる雷撃隊や池辺吉十郎率いる熊本隊が、大口や水俣で政府軍と一進一退の戦闘を行っています。さらに、霧島市牧園町でも、西郷軍や政府軍が数百にのぼる堡壘・塹壕を築き、戦闘を行っています。また、6月末から7月24日の都城陥落まで、大隅半島でも激しい攻防があり、その時の戦闘で亡くなった政府軍の兵士は曾於市大隅町岩川の官軍墓地に埋葬されています。

最後は、9月24日に鹿児島市城山で西郷隆盛が自決し、かけがえのない幾多の人材と財産を失い、7か月におよびぶ戦は終結します。西郷隆盛、桐野利秋、篠原国幹、村田新八、辺見十郎太、別府晋介、桂久武、大山綱良をはじめとする2,023名の西郷軍将士等が南洲墓地(鹿児島市)に眠っており、他にも県内各地に慰霊塔が建てられています。官軍墓地は、熊本県など九州を中心に51か所造営され、県内には鹿児島市の祇園之洲と曾於市の2か所に設けられました。祇園之洲は、現在慰霊塔に建替えられており、当時の墓石が残るのは岩川官軍墓地のみです。



滝ノ上火薬製造所 明治5年  
(東京国立博物館研究情報アーカイブスから引用)

## 西南戦争 戦況図



## 勃発の要因

滝ノ上火薬製造所は、当時、日本最大級の火薬製造所で、最新式の銃の銃弾を製造できるのは滝ノ上火薬製造所だけでした。その存在を危険視した明治政府が、保管してある弾薬や機械を秘密裏に持ち出そうとしたことに私学校徒らが激怒し、草牟田の弾薬庫襲撃へと発展します。いわば、西南戦争勃発の要因となった場所です。

平成5(1993)年の8・6水害で、その大部分が消失したと考えられていましたが、発掘調査の結果、当時の石垣や集水用の排水溝等が残っていることが分かりました。



滝ノ上火薬製造所跡

## 激戦の地

西郷軍において大口方面に派遣されたのは、辺見十郎太が指揮する雷撃隊と池辺吉十郎が指揮する熊本隊でした。伊佐市大口の高熊山には熊本隊、坊主石山には雷撃隊が陣を構え、鳥神岡にも味方を配置し、堡塁（塹壕）を築いて、政府軍の攻撃に備えていました。

山中では抜刀による戦いで対抗し、激しい戦いが繰り広げられましたが、6月18日に坊主石山が陥落し、同20日、高熊山の熊本隊と、雷撃隊本営の大口も総攻撃を受け陥落しました。

高熊山激戦地跡では、9基の堡塁跡と銃弾や薬莖、砲弾の可能性のある鉄製品などが出土しています。堡塁の配置や銃弾の出土状況・文献調査から、当時の戦闘状況が分かってきました。また、踏査の結果、坊主石山にも少なくとも5基の堡塁跡があることが判明しました。

政府軍と西郷軍は、牧園（旧踊郷）で2度の戦闘を行いました。1度目は、7月1日～7月7日の間、政府軍と西郷軍が対峙します。政府軍が国分方面に進み、挟み撃ちに遭うことを恐れた西郷軍は、本格的な戦闘は行わず、大窪方面（霧島市霧島町・財部（曾於市）に退却しました。2度目は西郷軍が鹿児島島に突入する直前の8月30日で、霧島市牧園町笠取峠で激しい銃撃戦を展開しました。

当時地元では、西郷軍の7月の敗退を「踊の1度敗れ」、8月を「踊の2度敗れ」と呼んで残念がったと言われています。地元の有志により、牧園町には300基以上の堡塁跡が確認されており、今回の調査では、そのうちのチシャケ迫堡塁跡群に残る7基の堡塁跡を調査しました。地形に合わせた堡塁の配置や、西郷軍が牧園町全域を防御陣としたことが分かってきました。



チシャケ迫堡塁跡群 堡塁1号

しゅうえん

## 終焉、新しい時代へ



岩川官軍墓地

岩川官軍墓地に葬られている兵士は、特に激戦となった鹿屋市輝北町百引での戦死者が多いことが判明しています。調査の結果、墓地中央に合葬したと考えられる土坑2基と寛永通宝が発見されました。

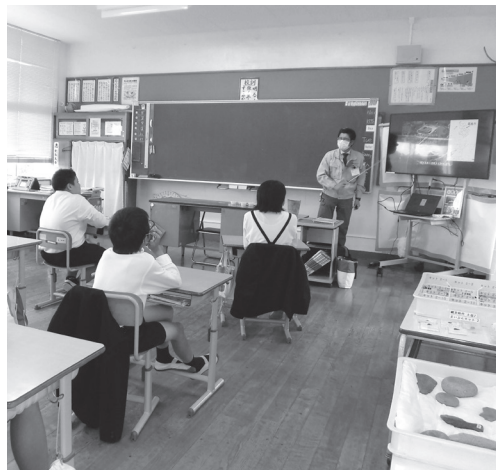
一方、薩軍の墓は岩川官軍墓地から菱田川を挟み、東に1.5 kmほどの曾於市末吉町岩崎の台地先端部に、ひっそりと1基だけ所在しています。マウンド状の塚の上に自然石が建ててあるだけで、刻字は残されていません。7月下旬の岩崎周辺の戦闘で戦死した西郷軍の兵士が葬られたと伝わっていますが、史料もなく、実際に誰が葬られたのかは不明です。今回の調査では、墓石一帯の測量等を行い、記録に残しました。

## 未来へつなぐ 西南戦争から学ぶ

ふるさと鹿児島県の先人たちは、幕末から明治維新时期にかけて日本の近代化をリードし、全国の様々な舞台で活躍してきました。その後の西南戦争では鹿児島県の地も戦場となり、今も多くの遺跡が地中に眠っています。埋蔵文化財センターでは本号で紹介した調査成果などを多くの方々に知っていただくため、「学ぶ」事業として県内各地の小中高等学校の授業で紹介してきました。将来を担う子ども達が地域の歴史について学び、郷土を愛する心を醸成する機会として、これからもできるだけ多くの成果を公開し、文化財を大切にすることを培っていきたいと考えています。



高熊山激戦地跡 堡塁7号調査状況



志布志市立尾野見小学校での様子



## 埋蔵文化財専門職員養成講座 ー上級講座ー 開催

令和3年1月19・20日、市町村の文化財担当職員等を対象として埋蔵文化財専門職員養成講座（上級講座）を実施しました。今回の講座では、「埋蔵文化財保護制度」をテーマとし、県内の現状と課題や、文化庁の近江俊秀主任文化財調査官を講師に迎え「発掘調査等に係る補助制度」、「法的知識」、「行政の役割」などの講義がありました。近江主任文化財調査官の講義は、在宅勤務中のため、東京のご自宅と当センターをインターネットでつなぎ、オンラインで行われました。

参加者は、メモをとりながら熱心に聴講し、今回の講座を通して、埋蔵文化財保護業務がより良く進めていけるよう気持ちを新たにしました。



東京-鹿児島を結ぶオンラインでの講座となりました

## ワクワク考古楽（授業支援）を行いました



本物の土器や石器を使った授業（笠木小学校）

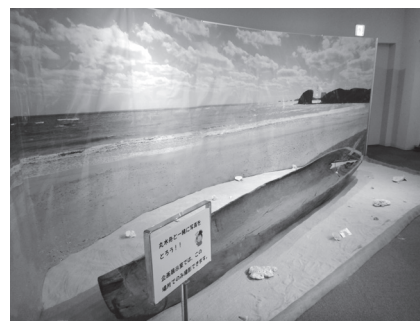
埋蔵文化財センターでは、地域の遺跡発掘調査で見つかった出土品など、本物の資料を活用した授業支援（出前授業）を実施しています。

職員が学校に出向いて授業を行ったり、発掘調査の現場で説明を行ったりします。授業に参加した学校の児童・生徒たちからは、地域の詳しい歴史を学んだり、本物の土器や石器を手にとって実感することで、文化財に対する興味関心の高まりがうかがえます。

またこのほかにも、本物の土器や石器、陶磁器などを学校に貸し出す「まいぶんキット貸出事業」も行っています。詳しいことは、埋蔵文化財センターのホームページ内で紹介していますので、そちらをご覧ください。

## 絶賛開催中です！ ー上野原縄文の森企画展の紹介ー

現在、上野原縄文の森展示館では、第59回企画展「海と活きた古代人 旧石器時代から弥生時代の鹿児島」を開催しています。海岸線の総距離が全国3位で、離島も多い鹿児島では、古くから海が身近にあり、魚貝類の恵みを得、船による交流を盛んに行ってきました。種子島で出土した約3万5千年前の旧石器時代の道具類や約1万3千年前の縄文時代草創期の丸ノミ形石斧（丸木舟を造る道具）などを展示しています。また、貝塚や奄美大島の砂丘地から出土した貝製品や北陸地方原産のヒスイ製品などを3月7日（日）まで紹介しています。



丸木舟といっしょに写真を撮ろう！

次回の第60回企画展は、4月24日（土）から開催予定で、上野原縄文の森で実施している縄文生活体験が、どのような発掘調査成果に基づいて組み立てられているかを分かりやすく紹介する予定です。



展示の様子



# 河コレ遺跡めぐり

河口貞徳氏の歩んだ遺跡

## ①一之宮遺跡（鹿児島市郡元）

鹿児島県立埋蔵文化財センターでは県考古学会の会長を長年つとめられた故河口貞徳氏の寄贈資料を整理する事業に取り組んでいます。『埋文だより』では、これまで河口氏が行った代表的な遺跡調査を振り返り、貴重な遺物や発掘当時の様子等を紹介したいと思います。みなさんもぜひ遺跡のあった場所を訪れて、先人の暮らしに思いを馳せてみてはいかがでしょうか・・・。



一之宮遺跡は、鹿児島市郡元の一之宮神社境内にあります。<sup>なかごおり</sup>中郡小学校に隣接し、紫原方面からのびるシラス台地の縁辺部に広がる低い<sup>ちゅうせきだい</sup>沖積台地に立地し、遺跡の西側を鹿児島湾に注ぐ新川が流れています。

一帯は古くから知られていた遺跡で、昭和25（1950）年7～8月、<sup>へんさん</sup>鹿児島市史編纂の事業に関連して、<sup>みくに</sup>河口氏を中心に、寺師見國氏、三友国五郎氏、近くの生徒や教師らとともに発掘調査が行われました。

調査では、弥生時代中期（約2,100年前）のものと推測される竪穴建物跡4軒と多くの柱穴等が検出されました。これらは、県内で発掘調査により発見された初めての建物跡であり、非常に重要な遺構である

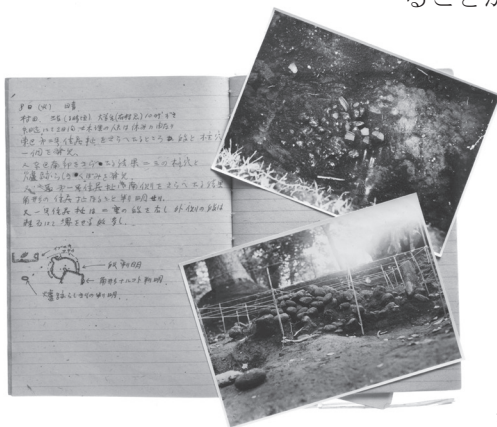
ことから、昭和28年9月7日、県



竪穴建物跡（昭和25年）

の史跡「弥生時代住居跡」として指定されました。そして遺構の一部は現状保存され、今でも神社と中郡小学校の間に当時のまま残されています。遺物は縄文土器や古墳時代の<sup>ささぬき</sup>笹貫式土器なども出土していますが、最も多く出土したのは弥生時代の山ノ口式土器で、石包丁・磨製石鏃・<sup>とつたい</sup>軽石製品なども出土しています。ここで出土した弥生土器は<sup>とつたい</sup>突帯にねじれた縄状の文様があり「一之宮式土器」と呼ばれたこともあります。

その後、鹿児島市教育委員会による中郡小学校の発掘調査では銅製耳飾りや墨書土器等が出土しています。また、鹿児島大学構内では古墳時代の集落等が発見され、このあたり一帯が弥生～古墳時代の拠点集落で、古代には鹿児島郡の中心地であったとも言われています。



細かく記録された調査日誌や写真

また、河口氏は当時の発掘調査の様子を発掘調査日誌に詳細に残しています。日誌には発掘に参加した人名やどのような遺構や遺物が出土したかなどが日々記されています。8月8日の日誌には「村田、三友（3時頃）、大学生（有村君）10時すぎ・・・東区第二号住居址をさらへたところ段と柱穴一個を発見・・・又第一号住居址は二重の段を有し外側の段軽石にて境をせる処多し。」などと図面と共に細かな状況が記録されています。これらの記録は70年以上も前のもので、河口氏の遺跡に対する<sup>しんし</sup>真摯な思いが記された貴重な資料と言えます。

一之宮遺跡は埋蔵文化財センターホームページ内の「先史古代のかごしま」（下記QRコード）でも詳しく紹介されています。また、現地には竪穴建物跡も残されていますので、ぜひ訪ねてみてください！



発掘のようす（昭和25年）



現在の一之宮遺跡



### 一之宮遺跡へのアクセス

- ・鹿児島市電「中郡」電停を下車、徒歩5分。
- ・一之宮神社を目指してください。

先史古代のかごしま

住所：鹿児島市郡元 2-4-27





# 発掘速報！「鹿児島城の実態に迫る！」

—鹿児島(鶴丸)城跡—  
(鹿児島市)



大手口跡周辺の調査区

みなさんは鹿児島(鶴丸)城というと、どこをイメージしますか？多くの方は県歴史・美術センター黎明館や県立図書館付近が浮かぶと思いますが、そこは本来、城があった場所のほんの一部に過ぎないのです。県立埋蔵文化財センターでは、鹿児島(鶴丸)城跡の範囲と実態を解明するために、平成30年度から発掘調査を行っています。

発掘調査は、まず城山山頂にあった鹿児島城築城当初の本丸への入口である大手口跡(現在の照國神社裏手から城山展望台に向かう遊歩道の途中)で行いました。ここでは、建物や塀の基礎と考えられる

遺構や薩摩焼などの陶磁器、鬼瓦などの瓦が出土しました。

城の南の境界であった南泉院跡(照國神社境内)では、薩摩焼、中国や肥前(現在の佐賀県・長崎県)で焼かれた陶磁器が出土しました。唐御門跡(現在の黎明館入口の正門跡)では、門の礎石と地業(溶結凝灰岩を突き固めた建物の構造)が確認されました。城の北側の境界にあたる堀の確認を目的とした調査区(長田中学校内)では、堀は確認できませんでしたが、さらに古い室町時代の土坑などを確認し、江戸時代に城下町が形成される前の姿の一端が見えてきました。今回の調査では、古い絵図に描かれていた建物等の存在を証明するだけでなく、その構造や当時の人々のくらしぶりなどを知るための情報を得ることが出来ました。



唐御門跡で検出された礎石

## 現地説明会を開催！

—久保田牧遺跡(鹿屋市吾平町)—



出土した遺物に興味津々

大隅縦貫道(吾平道路)の建設に伴う発掘調査が進められている久保田牧遺跡では、令和2年11月14日(土)に発掘調査の成果を公開するための現地説明会を開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催の案内を吾平町内の小中学校と遺跡周辺の自治会に限らせていただきましたが、当日は天候にも恵まれ、140名の見学者が訪れてくれました。

当日は会場内に、「土層断面観察エリア」「古代・中世の遺構群エリア」「古墳時代の堅穴建物群エリア」「調査風景エリア」「出土遺物の展示コーナー」を設け、担当の職員が詳しく説明しました。見学に訪れた方々からは、「自分たちの町に、こんな歴史があると知って感動した」「歴史に興味わいてきた」といった声が聞こえてきました。これからも郷土の歴史を解明できるようにしっかりと調査を進めていきたいと考えています。



巨大な溝状遺構の説明

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県 (<https://www.pref.kagoshima.jp/>) から入るか「上野原縄文の森」で検索してください。

また、フェイスブックは右側のQRコードからお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック



ホームページ



フェイスブック

埋文だより 第84号

発行日 令和3年2月25日  
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
〒899-4318 鹿児島県霧島市  
国分上野原縄文の森2番1号  
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820  
URL: <https://www.jomon-no-mori.jp>  
E-mail: [maibun@jomon-no-mori.jp](mailto:maibun@jomon-no-mori.jp)